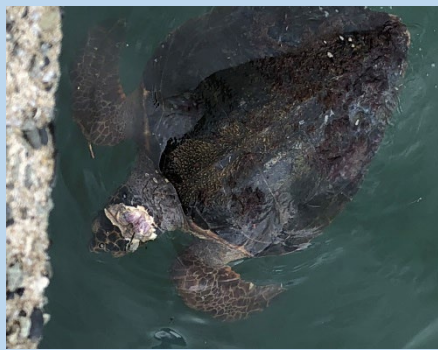


水環境館いきものトピック Vol.2

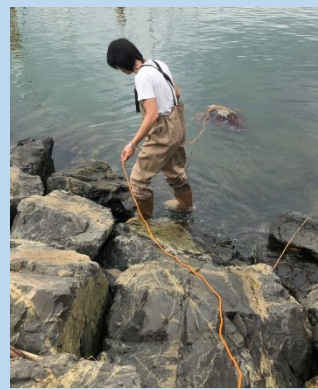
アカウミガメの保護

令和元年 7月22日(月)、門司区にある新門司マリーナ湾内で、頭にケガを負ったアカウミガメが見つかりました。船のスクリューに巻き込まれたようで、動きも鈍く、体力の低下から深く潜ることもできないようだったため、福岡市の水族館、マリンワールド海の中道様にご協力いただき保護しました。その経緯の一部をお伝えします。



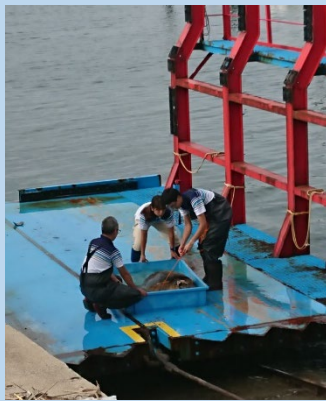
発見時の様子

湾内で発見された時は水面を漂うように浮いており、潜ろうと頭を下に向けるものの自由な動きができない様子でした。



干上がらない場所へ移動

このままだと干潮で岩場に干上がってしまうため、ロープに結び流されないように移動しました。また、ウミガメの仲間は保護する場合を含め許可なく飼育できないので、水族館マリンワールド海の中道様に連絡しました。



保護受け渡し

マリンワールドの皆様が到着されるとコンテナに乗せ、陸にあげる作業が行われました。この際、簡単な計測をすると甲長約90 cm、推定体重60 kgのメスであることが分かりました。



頭部の様子

船のスクリューによって傷ついたとみられる頭部は表皮のダメージこそ大きいものの、頭蓋骨への損傷はないようでした。その後車で運ばれ、水族館のバックヤード水槽へ収容されました。

ウミガメの仲間は、全種が国際的な保護条約であるワシントン条約や IUCN(国際自然保護連合)のレッドリストに挙げられるなど、絶滅の危機に瀕している動物で、商業的な取引や無許可の飼育などが禁止されています。アカウミガメは、童話「浦島太郎」に出てくるウミガメのモデルになった種類とされ、南日本を中心に広く生息します。福岡県内でも日本海側に数か所、産卵に上がる砂浜が知られるなど、身近な種でありましたが、近年は瀬戸内海側での発見例は少なく、産卵の確認が無い状況が続いています。

その後、このアカウミガメは、約3カ月の治療の後、体力も回復したことから令和元年10月9日に海へ返されたそうです。

